

「勝手にくま鉄検定」第12セット目 に挑戦しましょう！

- 1 右のイラストは田園シンフォニーの車両の一部です。矢印で示すaの窓は、このサイドには何枚ありますか。

①3枚 ②4枚 ③5枚 ④6枚



- 2 くま川鉄道の本社の社屋の外壁に2色で塗られている帯は、会社のシンボルカラーと思われます。この色の組合せは、何色と何色ですか。

①銀色と金色 ②青色と赤色 ③黄色と茶色 ④橙色と緑色

- 3 くま川鉄道の利用者に、国内、海外旅行業商品の販売、グッズ販売、奥球磨方面の観光案内等を行っているゲストハウスを何といいますか。

①くまなび ②球磨旅 ③球磨ナビ ④くまたび

- 4 熊本県内の第三セクターの鉄道事業者は、南阿蘇鉄道、くま川鉄道、肥薩おれんじ鉄道の3社があります。

この3社を設立が古い順に並べたとき、正しいものは次のどれですか。

- ①南阿蘇鉄道→肥薩おれんじ鉄道→くま川鉄道
②肥薩おれんじ鉄道→くま川鉄道→南阿蘇鉄道
③くま川鉄道→南阿蘇鉄道→肥薩おれんじ鉄道
④南阿蘇鉄道→くま川鉄道→肥薩おれんじ鉄道

- 5 くま川鉄道が保有する5両の「田園シンフォニー」が製作された工場が所在する都府県はどこですか。

①神奈川県 ②大阪府 ③東京都 ④新潟県

- 6 車両等で踏切を通過する際の正しい渡り方をまとめた以下の文で、明らかに誤っているものはどれですか。

- ①踏切を渡る際は、遮断機や警報機が作動しているか否かにかかわらず、必ず一時停止しなければならない。
②踏切の手前で一時停止した際に、窓を開けて外の音を聞かなければならない。
③踏切を渡り始める前に、線路を超えた前方に自分の車が入れるスペースがあるか確認しなければならない。
④踏切内で遮断棒が下りてしまったら、車が問題なく動くのであれば、そのまま直進して脱出する。車が動かなければ、踏切支障報知装置（非常

ボタン) を押して速やかに車から離れて、安全な場所から非常ボタンの下に書かれている連絡先に事情を伝える。

7 以下の文は、くま川鉄道のホームページに掲載されている、社長名で出されたある報告書(2019年度[令和元年度])の冒頭の抜粋です。

文中の【 】の中に入る、最も適切な言葉はどれですか。

平成元年10月に開業以来、これまで【 】を基本に、地域に根ざした企業としてお客様に快適に利用頂ける鉄道を目指し、地域の皆様と連携をしながら、地域の公共交通機関としての「足」として、より安全で快適な、そして便利な鉄道として今日まで運行してまいりました。

①お客様第一 ②利益第一 ③安全第一 ④利便第一

8 くま川鉄道で人吉温泉駅から湯前駅に向かうと、人吉温泉駅を出てすぐ山田川の鉄橋を渡ります。その後、川村駅を出て間もなく球磨川と川辺川が合流地点を球磨川第四鉄橋で跨ぎます。その後も大小様々な球磨川の支流等を渡っていきます。主な河川を順番に並べたとき、正しいものはどれですか。

①仁原川→免田川→百太郎溝→奥野川

②水無川→免田川→井口川→百太郎溝

③百太郎溝→小纏(こさで)川→奥野川→仁原川

④井口川→水無川→小纏川→仁原川

9 くま川鉄道に限らず第三セクター鉄道は、自治体による財政支援が経営の大きな柱とはいえ、住民のマイレール意識に支えられていると言っても過言ではありません。このマイレール意識を高めるために、どこの鉄道事業者も様々な取組みを行っています。

次のうち、くま川鉄道が企画したことがあるものはどれですか。

①グルメトレインの運行

②枕木オーナー制度

③運転体験を商品化して月に1回実施

④ゆるキャラや萌えキャラを活用

10 2020年(令和2年)3月に、それまでくま川鉄道が土日祝日に運行していた「はびねすトレイン」の運行が終了されました。

この列車の運行状況に関して、正しいものはいくつありますか。

但し、2019年(平成31年)3月16日ダイヤ改正版の運行状況とします。

- ア 爽やかな車内放送やきめ細かな接客で観光客の思い出づくりに貢献しているアテンダント（客室乗務員）は、地元のボランティアの女性が務めていた。
- イ 球磨川第四橋梁で徐行運転をしたり、いくつかの駅で長めに停車したりするので、通常の運行よりも15分程長い65分で運行していた。
- ウ SL人吉号で熊本方面から到着したお客さんが、引き続き「はびねすトレイン」を利用して奥球磨地方の観光に行けるようダイヤの接続が工夫されていた。
- エ 大人の往復（一日乗車券）運賃、指定席料金（片道）、はぴとれセットを含んだ料金は従来2,000円だったが、令和元年10月1日の消費税率改定後も据え置かれていた。
- オ 車内のBGMのベートーベンの「田園」は、第1楽章が繰り返し流れていて、第2楽章以降が流れることはなかった。
- カ 正規の運賃に指定席料金300円を追加で払うことによって、どこの駅からも目的とする駅まで乗車可能であった。
- キ 平成元年（2019年）8月末にテーブル席を撤去する車両改造工事が行われたが、車内で食事をされるお客様の便宜を図るため保有車両5両のうち1両だけ改造がなされなかった。
- ク 多良木駅ではえびす像のおみくじをひいたり、繁盛祈願をするために約2分停車していたが、その間、すぐ横（230mほど湯前寄り）の通称「野添第二踏切」の遮断機は降りたままで、道路の通行に支障をきたしていた。

①1 ②2 ③3 ④4

いかがでしたか？

それでは、「勝手にくま鉄検定」第12セット目の正解と解説です。

1 ③5枚

普段見慣れた車両であればあるほど、改めて問われると「？」となりかねません。実際に車両を確認してみましょう。イラストにあるサイドは、トイレがある側ですから5枚です。この反対側のサイドは、トイレがないので6枚になります。

2 ②青色と赤色

写真を見て明らかです。青は球磨川からの着想と思いますが、赤は何でしょうか。随分色褪せています。何人かの社員さんに聞きましたが皆さん「…？」でした。



3 ④くまたび

くま川鉄道のホームページ内の「くまたび」のサイトによると、「くまたび」はJR人吉駅横に所在（写真①）し、旅行業の営業は、平日9：30～17：00に行い、土・日・祝は、旅行業は休みとなり、グッズ販売や鉄道案内の営業（10：00～16：00）をしているとあります。



旅行業は、ANA（ソラシドエアー）、JAL 航空券及びパック商品、JR券、団体手配、JR九州旅行、近畿日本ツーリスト商品全旅（宿泊、交通、食事）、手配旅行の相談などを取り扱っている旨が記載されています。最近では、1日500円で、レンタル自転車（Rent a bike）の取扱いも始めたようです。



写真②は、くまたびの駐車場正面に立つ看板です。

4 ④南阿蘇鉄道→くま川鉄道→肥薩おれんじ鉄道

設問冒頭にあるように、熊本県内には現在3つの第三セクターの鉄道会社があります。国内には、国鉄路線、JR路線、私鉄などが第三セクター化した鉄道会社が47社（2016年）あり、何と都道府県の数と一致するので、平均して各県に1つは第三セクターの鉄道会社が存在することになります。そのことを考え合わせると、本県は多いと言っていいかもしれません。

設立順に見ていくと、まず南阿蘇鉄道ですが、1986年（昭和61年）、国鉄高森線（立野駅～高森駅間17.7km）を引き継いで開業しました。次にくま川鉄道が1989年（平成元年）、JR九州から引き継いだ湯前線（人吉駅～湯前駅間24.8km）の運行を開始しました。

そして、2004年（平成16年）、九州新幹線鹿児島ルートの新八代駅～鹿児島中央駅間開業に伴い、JR九州から鹿児島本線の八代駅～川内駅間（116.9km）が移管され、肥薩おれんじ鉄道が開業しました。新幹線開業に伴う経営分離で発足した第三セクター鉄道会社では唯一、主な営業エリアが複数の県にまたがっているという点と、JR貨物から線路使用料が入る点で特筆すべき鉄道会社になります。

5 ④新潟県

これは、ディープな鉄道ファンだったら御存知だったかもしれません。どの車両にも写真のとおり、車両端の上部に「トランス2014」と打刻された銘板があります。さっそく、ネットで「トランス 鉄道」のキーワードで調べてみたら、新潟県に所在する鉄道メーカーがヒットしました。正式名称は新潟トランス株式会社とあります。多分、トランスとは、transportation system（交通システム）の略だと思われます。



この会社はIHI（旧石川島播磨重工業）の子会社で、2002年（平成14年）に経営破綻した新潟鐵工所の施設・従業員などを継承して2003年2月に設立され、主に「ディーゼル気動車・新交通車両・超低床式路面電車などの旅客車両」、「新幹線や在来線の線路や電線を維持するために使われる保守用車両」、「積雪地域の道路や線路などに使われる除雪車両」の3つの製品群を製作しているとありました。

6 ②踏切の手前で一時停止した際に、窓を開けて外の音を聞かなければならない。

普段よく通る道に踏切がある方には問題ないと思いますが、そうでない方にとっては渡り方を忘れがちではないでしょうか。列車が通る踏切は、正しく渡らないと事故などの危険性が高まります。

正しい渡り方をおさらいしてほしいという願いを込めて作問しましたが、①、③、④が全く問題ないことは明らかだと思います。しかし、②は自動車学校ではそのように教習を受けますが、限りなくグレーです。まず、道路交通法を確認してみましょう。第33条を引用します。

車両等は、踏切を通過しようとするときは、踏切の直前(道路標識等による停止線が設けられているときは、その停止線の直前。以下この項において同じ。)で停止し、かつ、安全であることを確認した後でなければ進行してはならない。ただし、信号機の表示する信号に従うときは、踏切の直前で停止しないで進行することができる。

2. 車両等は、踏切を通過しようとする場合において、踏切のしゃ断機が閉じようとし、若しくは閉じている間又は踏切の警報機が警報している間は、当該踏切に入ってはならない。

つまり、一時停止と安全確認は義務付けられていますが、「窓を開けて、音を確認すべし」とまでは記されていません。それでも自動車学校でそう教わるワケは、「遮断機や警報機が設けられていない踏切が存在するから」と考えられます。都会ではあまり見かけないかもしれませんが、地方には今でも遮断機も警報器もない踏切（第4種踏切）があります。この第4種

踏切、国土交通省の資料によると、2017年（平成29年）3月末現在で全国に2,759箇所があり、くま川鉄道にも全62箇所の踏切のうち7箇所が該当します。そういうことで、窓を開けての安全確認は努力義務と言ってもいいですが、怠ったからといって法令違反とはいえず、この設問では誤りとしてしました。

なお、④に関して補足すると、遮断棒は手で押せば動かせる程度に軽いので、引っかかった場合でもそのまま直進することが可能です。遮断棒は折れてしまうかもしれませんが、まず線路外へ出ることを最優先にしなければなりません。また、非常ボタンを押すと「列車が止まったことによって発生した遅延などの損害賠償が請求される」という噂が都市伝説のように語られていますが、危険を回避するために非常ボタンを押したことで損害賠償請求がなされるということはない、というのが鉄道事業者の一致した見解です。

とにかく、遮断機や警報機が作動していないからといって、機械は故障がつきものです。その場合、左右を確認せず渡ってしまうと非常に危険だということを確認しておきましょう。

7 ③安全第一

鉄道会社の経営理念の第一の柱は「安全第一」、これは疑いようもなく、容易に想像がつくものと思われれます。

2018年度（平成30年度）版では、この文は次のように続き、その中にも「安全第一」が出てきていました。

ここ近年は、大きな事故、災害もなく概ね順調に運行する中で、社員全員が「安全第一」を基本に安全に対する意識を高める中で、安定輸送に努めた結果であり、安全こそが経営の基盤であることを社員一人ひとりが自覚し、取り組んでいかなければなりません。平成30年度も、社員全員が一丸となって安全をより一層、強固なものとして構築していくために具体的な取組を進める中で、鉄道の安全・安定輸送に努めてまいります。

ところが、2019年度（平成31年度）版では、次のように続き、2018年9月2日に人吉温泉駅構内で発生した車両事故（KT-505）の原因と反省について触れてあります。

昨年、車両検査引取後の請負会社との連携不足と社員の確認不足により、人吉温泉駅構内での入替え時に、車両のブレーキ装置が効かなかったことで、材料線に進入し建屋及び車止めとの衝突で車両を破損させるという大きな事故を起こしてしまいました。こういった事故がないように、あらためて検査後のマニュアル等の見直しを含め、しっかりと検討し事故防止を図ってまいりたいと思います。

いうまでもなく、安全こそが経営の基盤であることを社員一人ひとりが自覚し、取り組んでいかなければなりません。



8 ②水無川→免田川→井口川→百太郎溝

小纏（こさで）川は、球磨川第四鉄橋を過ぎてすぐの川村駅と肥後西村駅の間の川です。（上級を狙う方なら、この川は特に注意が必要です。というのも、この川に架かる鉄橋の登録有形文化財上の名称は、小纏川の上流の河川名である高柱（たかばしら）川の名前を冠して「くま川鉄道第一高柱川橋梁」・「くま川鉄道第二高柱川橋梁」という名で登録されているからです）

大谷川は、肥後西村と一武駅の間、水無川は、一武駅と木上駅の間、免田川は、おかどめ幸福駅とあさぎり駅の間、井口川は、あさぎり駅と東免田駅の間、奥野川は、公立病院前と多良木駅の間、仁原川は、多良木駅と東多良木駅の間、百太郎溝は東多良木駅と新鶴羽駅の間を流れています。

地元の川の名前は知っていても他の町村の河川名まで意識して覚えている人は少ないと思われ、難問だったかもしれません。（正直、筆者はこの問題を作問するまで河川名は知りませんでした）

このうち、免田川に架かる免田川橋梁は、1996年（平成8年）7月の豪雨で橋脚が大きく傾き、その復旧に3ヶ月（1億5千万円）がかかったという記録が残っています。

ちなみに、百太郎溝は、多良木町内の球磨川から取水し、あさぎり町ら錦町の田畑を潤す、おそらく鎌倉時代には掘削が始まっていたのではないかとされる全長18kmにおよぶ灌漑用水路です。藩の援助も、特別な指導者もおらず、農民だけで掘りぬかれた用水路とされ、一説には1711年（宝永7年）に完成したと言われています。写真①は、車窓越しに見た百太郎溝、写真②は、百太郎溝に架かる鉄橋（国の登録有形文化財）の様子です。



9 ④ゆるキャラや萌えキャラを活用

くま川鉄道は、九州新幹線鹿児島ルートが全通して半年後の2011年（平成23年）から「くまモン幸福切符」を発売しています。同社独自のゆるキャラではありませんが、不動の人気を誇るくまモンを使ったことで親しみやすさが感じられるのか、売り上げが伸びているそうです。

萌えキャラのほうは、2016年（平成28年）10月8日に発売予定だった特別応援切符（熊本地震の影響で激減する乗客の緊急対策として、田園シンフォニーの列車5両の色の服を着た美少女キャラクターが載った一日フリー乗車券5枚組6,000円。専用ケースとサウンドトラックCD付きの1,500セット）が販売中止になったことがありました。使用しているイラストが、成人向けゲームのタイトルやキャラクターと酷似していて、高校生が多数利用する鉄道では青少年健全育成上でも問題だと苦情があったからだと聞いています。

①のグルメトレインは、地元の名産を活用した料理を提供して地域の魅力をPRするもので、全国各地の鉄道で導入が進んでいます。県内では、肥薩おれんじ鉄道が一般車両をカフェレストラン風に改造したおれんじ食堂を運行しています。不知火海に沈む夕日を見ながら沿線の名産品をふんだんに使った料理が堪能できるということで、好評を博しています。

②の枕木オーナー制度とは、一般の方が鉄道の枕木のオーナーとなり、枕木交換の費用を負担することで、地域の鉄道の経営を助けるという取り組みで、経営状態が厳しい地方のローカル線などで、鉄道を存続させることを目的に行われています。県内では熊本地震で壊滅的な被害を受けた南阿蘇鉄道が行っています。一日も早い全線復旧に向け、線路で実際に使われている枕木のオーナーになることで被災区間の復旧費用の財源に充当しています。同社のホームページによると、1個が15,000円で枕木のオーナーになると、高森駅他4駅の構内の枕木にオーナーの名前とメッセージが入ったプレートが設置され、実際の枕木の所有・維持管理は南阿蘇鉄道が行っているとありました。

③の運転体験を実施している第三セクターは、会津鉄道（福島県）や平成筑豊鉄道（福岡県）などです。いずれも事前に簡単な研修を受ける必要があり、実際の運転は駅構内で運転士が横について行われているようです。有料とはいえ、実物の車両を運転できることは鉄道ファンにとって貴重な体験ですし、投資をすることなく集客できるという点で今後拡大していくものと思われます。くま川鉄道でも「くまてつまつり2017」などで有料（5,000円）の気動車運転体験が車両基地内の側線で行われたことがあります。散発的な催しであり「月1回実施」というのが誤りです。

その他、選択肢にはありませんが、県内の肥薩おれんじ鉄道では、「マイトレイン・鉄道教室」という企画を開催しています。これは、ディープな鉄道ファン向けの企画で、自分が思い描く理想のダイヤ案を作成して実際に運行してもらおうというものです。うん万円もかかるようですが、凄い企画だと思います。

このように、各社様々な取組を行っていますが、旧国鉄転換型の第三セクターは、この10年で4社が廃業しているのが現状です。鉄道は地域を支える社会インフラの使命を併せ持っているので、収益性だけの経営判断は難しいのは事実です。しかし、少子・過疎化で自治体財政の見直しが急務の人吉球磨地域では、赤字路線に税金を投入し続けている鉄道の存続議論は今後も避けて通れない問題として目が離せません。

10 ④4

既に運行が終了された列車に関するものであり、このような問題が出題されることは、まずないと思われます。しかし、2017年（平成29年）から3年間もの間、くま川鉄道が力を入れて運行していた列車でもあり、ある意味、くま川鉄道の「コンセプト列車」と言ってもよかったのかなと思っています。

「歴史は意識して保存しておかないと忘れられる」と、筆者はつくづく考えています。ということで、当時を懐かしみながら私も力を入れて作問しました。「勝手にくま鉄検定」の最後を飾るにふさわしい大問だと思っていますが、いかがだったでしょうか？

正しい選択肢は、、、、の4つになります。順に見ていきます。

で述べられているアテンダントは、ボランティアではなく、れっきとしたくま川鉄道の社員さんでした。私が知っている限り、同じ方がいつも乗務されていました。他の日に休日はあったのでしょうか、土日祝日がいいつも出勤ということで不自由してないのかな・・・と心配していました。

は、徐行運転や長めの停車は正しいのですが、所要時間が誤りです。人吉温泉駅11：01発で、湯前駅着が12：14でしたから、所要時間は73分（1時間13分）でした。

ですが、土日休日を中心に臨時運行されているSL人吉は、当時朝9時45分に熊本駅を出発し、人吉駅に到着するのは12時09分でした。従って、11時01分発の「はびねすトレイン」とは接続していませんでした。

は、正しいです。はぴトレセットには、はぴトレ専用絵馬、オリジナルポストカード（84円切手付）、サインペンの商品が入っていました。

も正しいです。実際に「はびねすトレイン」に乗車して、注意深く音楽を聞いておられた方は、気付いてらっしゃったと思いますが、第1楽章のあの有名な冒頭部分が繰り返し流れていました。

第9セットの1の解説でも触れているとおり、KT-501～505の全ての車両に、それぞれ異なる楽章のスコア（オーケストラ用の楽譜）の写しが額に納めて掲示しているほどの凝りようなのに、全曲通して流れておらず、この点だけは大変残念な気がしていました。

BGMは、曲が入ったMP3デジタルプレーヤーを専用装置に接続して再生（写真①：許可を得て撮影）していました。なお、スピーカー（写真②：KT-505：白秋号に設置されているもの）は、アメリカ合衆国に本社を置く業務用音響機器開発製造企業ボーズ（BOSE）製で、BGMとしては音質がよいと好評でした。



カは、意外かもしれませんが、正しいです。しかし、筆者が3回乗車した範囲内で見た限りですが、終点湯前まで行かずに途中で降りるお客さんはいましたが、途中駅から乗車したお客さんは一人もいませんでした。

キは、誤りです。車両改装工事で5両全部からテーブル席がなくなりました。

クは、正しいです。筆者は、実際にはびねすトレインの運行日に、先回りして当該踏切に行って遮断を確認しました。

その踏切には、写真③のような表示板が添えてありました。写真では、小さくて読みにくいですが、次のように書いてあります。



「観光列車田園シンフォニーの運行に当たり、多良木駅 12時0*分に停車しまして、12時0*分に発車します。その間、遮断機が下りた状態で*分程度通行ができなくなります。通行者の皆さまには大変ご迷惑をおかけしますが、何卒ご理解、ご協力をお願いします」

でも、なぜか「*」の部分が白で塗りつぶされています。きっと、地域住民からの苦情があって、このような表示板を設けたのかもしれませんが、大都会によくある「開かずの踏切」のことを考えると、2分程度の遮断は交通障害に当たらないという会社の判断があったのかもしれません？

最後まで解いていただき、ありがとうございました。

私自身が誤解しているところや、誤植があるかもしれません。

何か気づいたことがあればお知らせいただきますと、嬉しいです。

改良の際に反映させます。

お疲れ様でした！！